

奈良県立万葉文化館 展覧会開催実績(令和6年)

館蔵品展 7人の万葉歌人からたどる万葉集

会 期 : 令和6年1月13日(土)～3月3日(日)(開館日数:44日間)

会 場 : 奈良県立万葉文化館 日本画展示室

主 催 : 奈良県立万葉文化館

入館者数 : 1,350名(1日平均30名)

【展覧会趣旨】

『万葉集』は奈良時代末頃に成立したと考えられている我が国最古の歌集である。長歌・短歌・旋頭歌など4500首余りの歌が収録されており、採られた歌人は天皇から庶民まで幅広い階層におよぶ。『万葉集』は100年以上の長い期間に詠まれた歌が収められているため、今日、歌風を検討する際には、舒明朝から壬申の乱までを第1期、壬申の乱以後奈良遷都(和銅3年)までを第2期、奈良遷都から天平5年までを第3期、天平6年以降淳仁天皇の天平宝字3年までを第4期というように4つの時期に区分している。

本展では、それぞれの時期の代表的な歌人である額田王、柿本人麻呂、山部赤人、山上憶良、大伴旅人、大伴坂上郎女、大伴家持という7人に焦点を当て、「万葉日本画」や古典籍、陶磁器人形といった当館のコレクションを展示する。

万葉歌人たちの業績や生涯を美術作品から紹介し、万葉歌が詠まれた時代をたどるものである。



展覧会チラシ

【関連イベント】

1月14日、1月17日、2月21日には、当館担当学芸員によるギャラリートークを行った。陶磁器人形展示を記念して、ハワイエには、顔出しパネル等を作成、設置した。



顔出しパネル等



特別展「とびだせ！長谷川義史展」

会 期：令和6年3月16日（土）～5月6日（月・休）（開館日数：45日間）

会 場：奈良県立万葉文化館 日本画展示室

主 催：奈良県立万葉文化館

協 力：空色画房、MBS テレビ

入館者数：8,040名（1日平均179名）

【展覧会趣旨】

絵本作家・長谷川義史さんの作品は、ほのぼのとした雰囲気と表情豊かでユニークな登場人物が印象的である。ダイナミックな筆づかいから生み出された登場人物たちは、絵本の中で笑いあり涙ありの物語を繰り広げる。ふると大阪を舞台に、家庭や学校での日々を描いた作品には、家族や先生、友人を大切に思う気持ちが込められていて、また、戦争や震災をテーマとした作品には、身のまわりに当たり前のようにある幸せの大切さを改めて考えさせられる。

本展では、絵本の原画を中心にイラストやスケッチ、立体作品など約230点を展示し、「世界中のみんなが笑っていてほしい、幸せであってほしい」という願いが込められた長谷川さんの絵本の世界を紹介する。なお、当館でのみ出陳される奈良にちなんだ作品も多数展示するものである。



展覧会チラシ

【関連イベント】

3月17日、4月28日には、「長谷川義史さん絵本ライブ&サイン会」を企画展示室にて開催した。長谷川義史さんによる自身の絵本の読み聞かせや、その場で描きながら展開するライブ紙芝居などを行った。各回、定員120名のところ、応募者多数のため抽選となった。ライブ中に描かれた作品は、ホワイエにて展覧会期間中に展示した。

4月6日には、「おはなしの森」を万葉図書・情報室にて開催した。当館図書・情報室の職員が長谷川義史さんの絵本の読み聞かせを行った。3月20日、3月23日、4月24日には、当館担当学芸員によるギャラリートークを行った。



4月28日イベント

特別展 「生誕110年 佐藤太清展 一水の心象―」

会 期：令和6年5月18日(土)～7月7日(日)(開館日数：44日間)

会 場：奈良県立万葉文化館 日本画展示室

主 催：奈良県立万葉文化館、生誕110年佐藤太清展実行委員会

入館者数：2,654名(1日平均60名)

【展覧会趣旨】

自然から感受したイメージを独自に解釈し、詩情豊かな世界観を創出、花鳥風景画を確立した日本画家・佐藤太清(1913～2004年)は、2023年に生誕110年、2024年に没後20年を迎える。太清の人生は、母の胎内にいるうちに父が病没、誕生直後には母も亡くす体験から始まった。幼少期に孤独から逃れるように野山を歩き、そこで見たものを描くひとときが絵の道に進む端緒であったと、後に太清は語っている。

故郷・京都府福知山市に流れる由良川は豊かな恵みをもたらす一方、水害を発生させる暴れ川としても知られている。穏やかな自然が時に様相を変える瞬間を太清は何度も目撃したことだろう。太清の描く絵画には、自然の美しさや生命感が込められる一方、恐怖や逃れられない死といった重層的なイメージがみられ、独自の画風が形成された礎には、幼少期からの自然との関わりが影響したと考えられている。本展は、太清が生涯にわたり描いた「水」に連関する作品に着目。画業70年における作品を概観しながら、水の心象表現をたどる。

また、初の試みとして、画室に遺された全絵具をサンプル化した1000色を超える色相図「太清の絵具棚より」を会場に設置。太清自身が調合した多彩なグレーに注目しつつ、画家の眼にせまる展観もみどころである。

【関連イベント】

展覧会初日の5月18日9時30分より、日本画展示室前にて開会式を行った。同日14時から、トークショー「佐藤太清を語る」を当館企画展示室にて行った。出演者には、大矢紀氏(日本美術院同人・評議員)、福田千恵氏(日展理事・日本芸術院会員)、モデレーターは安田晴美氏(美術史家・福知山市佐藤太清記念美術館顧問)をお迎えした。

6月8日には、ワークショップ「思い出の色彩を映してみようー太清がのこした色紙を使ってー」を当館企画展示室にて開催した。講師に小淵暁子氏(イラストレーター)、安田晴美氏(美術史家・福知山市佐藤太清記念美術館顧問)をお迎えし、参加者の思い思いを色紙に描いた。



展覧会チラシ



6月9日コンサート

奈良県立万葉文化館 展覧会開催実績（令和6年）

6月9日にはミュージアムコンサート「太清絵画と音楽－絵画世界から生まれたファッションをまとめて－」を当館企画展示室にて行った。出演者には、諸岡由美子氏（チェロ）、岩崎宇紀氏（電子チェンバロ）、トークゲストに小淵暁子氏（デザイナー）、安田晴美氏（美術史家・福知山市佐藤太清記念美術館顧問）をお迎えした。参加者には特別展「生誕110年 佐藤太清 水の心象」2割引券を配布した。5月19日、22日、6月26日には、担当学芸員によるギャラリートークを行った。

館蔵品展 「万葉 恋ものがたり」

会 期：令和6年7月20日（土）～9月16日（月・祝）（開館日数：49日間）

会 場：奈良県立万葉文化館 日本画展示室

主 催：奈良県立万葉文化館

入館者数：2,117名（1日平均43名）

【展覧会趣旨】

奈良時代末頃に成立したと考えられる我が国最古の歌集『万葉集』には、男女の恋歌を主とする「相聞（そうもん）」に分類される歌が多くおさめられている。それらの歌の数々には、お互いを想う歌や、恋い焦がれる苦しみ、嫉妬する気持ちが込められたものもあり、およそ1300年の時を超えてなお、当時の人々の思いをありありと今に伝えている。

本展では、恋の歌をモチーフに描かれた「万葉日本画」を中心に、下絵や素描なども紹介する。万葉のひとびとが織りなす恋模様に思いをはせる機会としたい。

【関連イベント】

7月21日、24日、8月28日、9月4日には、担当学芸員によるギャラリートークを行った。

展示会場には、展示作品を楽しみながらクイズに答える



ワークシート

オリジナル展覧会ワークシートを作成、設置した。本展にあわせて、ホワイエにフォトスポットを設置した。



展覧会チラシ

特別展「富本銭特別展示 天武天皇と〈飛鳥・藤原〉の文化」

会 期：令和6年10月19日（土）～令和6年12月8日（日）（開館日数：44日間）

会 場：奈良県立万葉文化館 日本画展示室

主 催：奈良県立万葉文化館

特別協力：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

協 力：奈良県立橿原考古学研究所、橿原市、明日香村教育委員会

後 援：NHK奈良放送局、奈良テレビ放送株式会社、株式会社奈良新聞社、

西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、奈良交通株式会社、

奈良県教育委員会

助 成：芸術文化振興基金

入館者数：3,547名（1日平均81名）

【展覧会趣旨】

万葉文化館は飛鳥時代に金属、ガラス、玉製品などを生産した「飛鳥池工房遺跡」の場所に建っている。1990年代に実施された調査では「富本銭」と呼ばれる銅銭が大量に出土し、それまで最古とされた「和同開珎」（708年初鑄）に先行する天武天皇時代の貨幣であることがわかった。当館では特別展示室を設けて様々な出土品の複製を展示してきた。

さて、2024年10月、久々に実物の富本銭が生産工房の地（万葉文化館）に帰ってくる。これに合わせて、七世紀後半、天武天皇から持統天皇へと継承された〈飛鳥・藤原〉の文化を紹介する展覧会を開催する。この時期の日本は大陸の制度を積極的に採り入れ、中央集権国家としての体制を整えていった。文化面においても中国や朝鮮半島から新しい情報が伝わり、官立の仏教寺院が造られ、中国の条坊制を採用した都城「藤原京」が誕生。『万葉集』にもこの時代の人々の歌が残っている。本展覧会では富本銭の特別展示とともに、天武天皇と関わりのある吉野や明日香地域に残る遺品や伝承、藤原京跡の出土品、万葉歌や近代の「万葉日本画」もあわせて紹介し、飛鳥時代の人々に思いを馳せる機会としたい。

【関連イベント】

展覧会初日の10月20日9時30分より、日本画展示室前にて開会式を行った。同日14時から、「特別展関連講演会①」を当館企画展示室にて開催した。講演内容は「富本銭と飛鳥池工房」講師：石橋茂登氏（奈良文化財研究所飛鳥資料館学芸室長）、「飛鳥池遺跡と万葉集」講師：井上さやか（万葉文化館企画・研究係長）。11月9日には、「特別展関連講演会②」を当館企画展示室にて開催した。講演内容は、「〈飛鳥・藤原〉と東アジア



展覧会チラシ

奈良県立万葉文化館 展覧会開催実績（令和6年）

の仏像」講師：石松日奈子（奈良県立万葉文化館参与、東京国立博物館客員研究員）。

11月2日、3日には、「富本銭をつくろう」を当館エントランスにて開催した。今回の特別展もあり、おおいに賑わった。

10月20日、23日、11月27日には、担当学芸員と担当研究員によるギャラリートークを行った。本展にあわせて図録の制作をした。また、ホワイエにてフォトスポットの設置も行った。



10月20日講演会



11月9日講演会